司会
吉崎達彦氏

（よしざき・たつひこ）　昭和35年生まれ。一橋大卒。59年日商岩井入社。米ブルッキングス研究所客員研究員、経済同友会調査役などを経て平成14年から日商岩井総研調査グループ主任エコノミスト。ネット上で発信中の週刊ニュースレター「溜池通信」（tameike.net）は216号を数える。著書に「アメリカの論理」など。

自民党の安倍晋三幹事長の登場や大長老の政界引退などで加速された政界の世代交代。その当事者たちは新年の政治や今後の政界の行方をどう展望しているのか。昨年の衆院選で初当選した自民党の城内実氏（38）と民主党の長島昭久氏（41）、参院から自民党の世耕弘成氏（41）、民主党の浅尾慶一郎氏（39）の若手４氏が、イラクへの自衛隊派遣から政党論、世代論まで語り合った。進行役は、気鋭のエコノミスト、吉崎達彦氏（43）。平均年齢40.4歳の新春座談会となった。

自衛隊派遣・政党論・世代論……　若手４議員 新春座談会 ㊤

自民党衆院議員
城内　実氏（38）

（きうち・みのる）　昭和40年生まれ。東大卒。平成元年外務省入省。在ドイツ日本大使館勤務、天皇陛下や首相の通訳官などを経て14年11月に退官、公募により自民党静岡７区支部長に就任。昨年の衆院選では、旧保守新党の熊谷弘代表とぶつかるため党本部公認を得られず無所属での出馬となったが、約４万票差で初当選。当選後、自民党入り。

民主党衆院議員
長島　昭久氏（41）

（ながしま・あきひさ）　昭和37年生まれ。慶大大学院博士課程在学中に石原伸晃衆院議員秘書。米ヴァンダービルト大客員研究員、ジョンズ・ホプキンス大高等国際問題研究大学院修了。日本人初の米外交問題評議会上席研究員として朝鮮半島和平構想プロジェクトに参画。著書に「日米同盟の新しい設計図」など。当選１回（東京21区）。

吉崎氏　昨年秋の衆院選では、どんな民意を背中に感じましたか。まずは、党首（熊谷弘旧保守新党代表）を破って、ひとつの政党をつぶしてしまった自民党の城内さんから

城内氏　よくそう言われますが、本当にそうでしょうか。私は当初、自民党の公募、予備選で選ばれた候補者でした。公募による候補は民主党に多いのですが、自民党ではまだ少ないですね。三十八歳という若さを売りものにして「しがらみのない政治」「世代交代」を訴えました。私は「保守主義者」ですが、革新的な保守主義者です。一番悪いのは保守的な革新主義者です」とも申し上げてきました。

権力亡者いまだいるようだ　城内氏

吉崎氏　民主党の長島さんはどうですか

長島氏　衆院選には二大政党をつくっていこうという、大きな流れがあったと思います。私の選挙区では無所属の方が前職でしたが、基本的には自民党候補との一騎打ちになりました。そういう選択をみなさんがされたんだと感じます。しかし、これからが勝負です。民主党の百七十七議席というのは、政権交代にはほど遠い結果でした。本当に政権交代に近づくためには、みんなが安心して政権を預けられる政党、政治家にわれわれが育っていかなければなりません。そういう意味で、外交や安全保障の分野でそんなにブレないと有権者に感じてもらうことが重大な課題です。

城内氏　なってみてわかったことですが、無所属というのは大変なんです。選挙という戦争で武器がどんどん減らされてしまう。選挙ビラや選挙はがきも党公認だと枚数が全然違うんです。テレビの政見放送も無所属はだめ。党の公認料ももらえない、街宣車もない。そういう中で、とにかく走るんです。スニーカーで走り、自転車で走りました。最後は精神力です。

世耕氏　結局、物量が結果を決めないということを城内さんが証明したんですよ。自民党の議員が忘れていることです。どうしても組織に頼り、推薦状を何枚もらったか、こういう構図であの町長はこっちについてくれたから、これで足し算するとＯＫだーというような選挙をやっているから、厳しい結果になったんですよ。

長島氏　党内分裂にひるまない民主

長島氏　われわれは市民の代表で選ばれるということで、労働組合の方からクレームもあったのですが、事務所では推薦状とか檄ビラを全部なくし、千人の市民の皆さんに書いてもらったメッセージを張ったんです。本当に私たちの代理で出てくれるんだなというイメージを私自身も感じましたし、応援してくれる人たちとの間で一体感も生まれました。

吉崎氏　民主党の浅尾さんは今年をどうみていますか

浅尾氏　今の段階で言っても当たらない確率が高いでしょうが、一つだけ変わらないのは、普通の方々が「変えなければならない」という思いを持っていることです。政治への思いが小泉政権の誕生につながったが、政権が二年余り続いてほとんど何も変わらなかった。選挙区を歩いていると、有権者がもう少し変えなければいけないという思いを持っていることを感じます。政治家だったらどういう国にすべきか、はっきり出すべきです。機会、チャンスがだれにも与えられ、自己実現ができる国です。あきらめモードに入っている人も多いので、ここを変えたいと思っています。

吉崎氏　世耕さんは政府の一員（総務相政務官）として違う見方もあるでしょうが

世耕氏　歯切れが悪くなるかも（笑い）。今年は「変化」が大きなキーワードになると思っています。小泉内閣は変化のきっかけをつくったと思っています。それに合わせて大企業や中堅企業、技術力のある会社、ベンチャーなどの分野ではマインドが相当変わった。地元の経済人からもらう陳情も昨年あたりからガラリと変わりました。今までは信用保証協会から保証をつけてもらえないかとか、何でもいいから補助金をとれないかといった相談が多かったのですが、昨年あたりから、こういう新しい仕事をやろうとしているんだけど、こういう制度が邪魔をしているので何とか解決できないだろうかとか、かなり前向きの形に変わってきました。一方で変化できない人たち、変化に取り残されている人たちも出てきていると思っています。

「あきらめモード」変えたい　浅尾氏

浅尾氏　今まで政治に頼っていた人が、政治に頼っても仕方がないと思い始めた。それが小泉内閣の「功績」だと言えます。景気がよくなった理由は大企業などの自助努力の部分が大きい。冷静に分析すると、利益は出るようになっていますが、売り上げが増えているわけではない。つまり損益分岐点を下げているということなんです。率直に小泉内閣を評価すると、能動的なことは何もやっていない。何かをして国をある方向に持っていこうというところが見えないと思います。

城内氏　ただ、道路公団、郵政の民営化など、これまで手がつけられなかったところにメスを入れているという意味で、既得権に果敢に挑戦されている小泉首相は歴史が評価する人物であると思っています。

浅尾氏　私は道路公団や郵政の民営化に反対していませんが、何のために民営化するのかという点が国民に伝わっていないのではないか。民営化そのものが目的化しているということです。

世耕氏　小泉さんの考えを代弁すると、民でできることは民がやる、地方でできることは地方でやる。そういう文脈で郵政民営化も道路公団民営化も語られていると思っています。

今、能動的な政策がないと言われましたが、私も小泉さんを支える立場から「もうちょっと出してほしいな」という思いはあります。

吉崎氏　これまで自民党が連立政権を組んだ新党さきがけ、社会党、保守新党はどれも自民党に養分を吸われてしまいました

世耕氏　下野を恐れていてはだめだ

世耕氏　私が党内で主張しているのは、下野することを恐れるなということです。政党たるもの過半数を失ったら基本的には政権を降りることを恐れるべきでないと思います。ところが、恐れているんですね。そういう話をすると、先輩たちは「自民党が下野した細川政権時代の一年弱の期間は本当に寂しかった。自分が質問する時は少なくとも課長クラスが来たのに、いきなり一般の担当者が書類を持ってくるだけになった。こんなに寂しいことはない」というんです。なぜ、寂しくなるかというと、自民党の責任なんです。官僚におんぶに抱っこでやってきたわけですから。下野することに備えて、官僚抜きでも自分の政策をしっかり考えられる態勢をつくっておくべきです。私はむやみやたらに連立は組むべきではないと思います。

城内氏　私も同じ考えです。ただ、自民党にも民主党にも、もっと変えるべき点があると思います。自民党には、共産党政権になっても政権にしがみつき大臣になりたいという権力亡者がまだいるような気がします。民主党は右から左までどこに思想の一貫性があるのかと思います。

長島氏　「下野することを恐れるな」と言われましたが、この心意気に応えて言えば、民主党は分裂することを恐れないということです。

城内氏　それはいいですねえ。

民主党参院議員
浅尾慶一郎氏（39）

（あさお・けいいちろう）　昭和39年生まれ。東大卒。62年日本興業銀行入行。銀行員時代に米国留学。平成４年米スタンフォード大経営大学院修了、ＭＢＡ（経営学修士）取得。７年に興銀退職。10年参院選（神奈川選挙区）で初当選。「文藝春秋」「中央公論」など月刊誌に国際経済や安全保障をテーマにした論文を多数発表。当選１回。

自民党参院議員
世耕　弘成氏（41）

（せこう・ひろしげ）　昭和37年生まれ。早大卒。61年、ＮＴＴ（日本電信電話株式会社）入社。米ボストン大大学院留学、企業の危機管理を研究。同社広報部報道担当課長を経て、平成10年11月の参院和歌山選挙区補選で初当選。党広報本部副本部長、マルチメディア局長などを歴任し、15年９月の小泉再改造内閣から総務相政務官。当選２回。